The Osaka University Library Bulletin ISSN 0387-4400

大阪大学図書館報

Vol. 16, No. 5/6 February 1983

目　次

○わが図書館について思う
○山田館長のあしあと
○電算化新システムによる雑誌管理業務の概要
○昭和57年度上半期国立大学等図書館間文献複写実績
○教官著作寄贈図書
○業務電算化新システム稼動開始
○図書館業務電算化日録(1)
○会　議
○日　程
○館内の動き
○人　事

わが図書館について思う

―― 図書館長退任にあたって ――

山　田　信　夫

昨年8月中旬から下旬へかけての2週間、日本学術振興会の訪中視察団の一員として、中国の大学を視察する機会があった。今回は、私の希望も入れられて、北京以外は陝西・甘粛・四川という西部辺境諸省における、教育部直轄の重点大学に指定されている9大学が、その訪問先にえらばれた。いずれも短時間の訪問ではあったが、近代化路線を進めている現在の中国で、大学もその例外でないことがいろいろの面で、具体的に知り得たことは収獲だったと思う。その視察記をいまここで書くつもりはない。ただその間に、私にとっては、これらの大学における図書館のあり方がとくに印象的だったことを、いま思いおこしている。

訪問したどこの大学でも、その教学のしくみや現状の説明をまず求めたが、その中で、蔵書数――意外に多く、100万冊をこえるところが少なくなかった――にはじまり図書館のことにふれないところはなかったし、ユニークな蔵書コレクションがあれば、もちろん誇らしげに言及された。また応待された先方の顔ぶれの中には、学長もしくは副学長以外に、図書館長またはしかるべき代理者がかならず加わっていた。施設の見学は全部では行なわれなかったが、できたときには、やはり図書館を外観だけでも見せられた。事実、本部施設のある建物などとくらべて、キャンパスに大小はあるにしても、多くはその中心部分に、とくに堂々とした建造物が図書館であることが多く、それらにはまた、どこからでもすぐ目につくような大きな「図書館」の文字が、正面にかかげられていたのである。

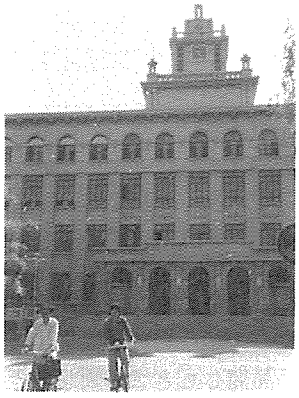
このようなことは、欧米の、とくに古い歴史のある大学ではよく見られることであって、まさに古い大学のイメージ、図書館は大学の象徴といった伝統的大学像の一側面に過ぎぬと言えば、それまでである。しかしそれにしても、そのあまりにもゆるぎない姿に、行くさき

ざきで接した私にとっては、ともすると忘れかかっていたことをハタとまた、思い起こさせられたという意味で、強く印象づけられたのである。

陝西師範大学図書館

近年、各地の、とくに私立大学で図書館の新築・改増築が多いようである。図書館長在任中、それらの竣工式などに招かれ見学する機会もいく度かあった。いずれも、外観・構造などではキャンパス内の諸建築の中でも別格に扱われており、内部施設も、閲覧室では人間工学、音響・照明などの最新の技術をもりこんだ、一般教室以上に細かい配慮が加えられていた。その他、図書館の諸業務運営の面でも機械化を加味した新システムが積極的に採用されたりしていて、とにかく大学の諸設備の目玉・看板であるかのように、誇りをもって外来者の見学に供するのである。たしかに中国のばあい、いくつか館内まで案内されたときに見た、内部の諸設備、運営業務の状況など、このような新しいものはほとんど見られなかった。しかし少なくともその規模・外観だけでは「大学の象徴」にふさわしいだけのものはそなえていたし、大学人の意識として、図書館をそのように位置づけていたことはたしかである。そのことは、新しくつくられている日本の諸大学の図書館のばあいも、やはりあやまたず生かされているのではなかろうか。

わが阪大図書館は、日本の大学図書館の中でも、ある意味では常に新しいものを目ざして来たし、いつも目ざしているという点で、その第一線に立って着実な歩みを進めていると評価されていると思う。今年度新しい機器も導入された。全学的に学内学術情報流通システムのあるべき姿、改善整備すべき問題点の検討も終え、新時代を目ざす新しい体制の中心となるべく、その準備もととのえられつつある。これらのことは、図書館内ではこれまでの先輩、現在のスタッフの並なみならぬ努力があってこそのことであるが、一方、学内外各方面の御理解御支持が得られたからである。しかしそれにしても、私が中国で思いおこさせられたこと、わが国での最近の新築図書館などについて見られたこと、それらに通じていたいわば一つの理念、要するに大学の象徴的存在としての図書館というような図書館像が、わが大阪大学ではどこまで通じるだろうかという疑念は、残念ながら私の頭からどうしても去らないのである。


蘭州大学図書館

新しい図書館づくりはたしかに進んでいる。一方それだけに、対象業務は、蔵書が毎年8万冊はふえるというだけでも、数量的にも年々急増しているし、同じく年間、入館者だけでも延人数80万を越えるという利用者の要望は、いよいよ多様化している。それに対応する職員は、専門職としての熟練と、それにふさわしい創意とをそなえた人材が確保されなければならぬのであり、そのような声が利用者側からあがることが本当なのではなかろうか。建造物のことなどは二の次でよいけれど、昨年慶応大学で、近く関西大学で、いずれも創立記念として30億、40億という予算規模で図書館を新築したし、しようとしているという。わが大

阪大学50周年記念事業として、現時点では現実的に不可能ではあったが、とにかくほとんど図書館のことは話題にもならなかった。次の機会には、どこかからそのような声が出ることを期待したい。単なる学内の共同利用施設の一つというのではない、大学における図書館というものに、大学の象徴とまで言わないにしても期待をこめた熱いまなざしが、全阪大人からそそがれるという日のくることを、6年間の図書館長職から離れ、阪大を去る日も目前にしている私としては、心から祈りたい。 (前附属図書館長)

山田前館長のあしあと

山田前館長は昭和51年12月に館長に就任され、昭和57年11月末の任期満了まで、2期6年間に渉って図書館の行政にあたられました。その在任期間中は情報化時代における学術情報と大学図書館の在り方が問われ、図書館の整備・充実が学内・外から期待される大変難しい時期でありました。前館長は新しい時代に対応しうる図書館を構築するため、多大のご努力を払われました。ここに、在任中の主なる業績を挙げ感謝するものです。

I 附属図書館の整備・充実

1．組織・施設

○ 和漢書目録掛、洋書目録掛設置〔目録掛改組〕(昭53.6)
○ 閲覧課雑誌掛設置(昭54.4)
○ 閲覧課閲覧第三掛〔理学部〕設置(昭55.4)
○ 本館ブックディテクション設置(昭56.3)
○ 本館障害者用スロープ、自動ドア、トイレ施設の整備(昭56.3)
○ 医学情報課〔中之島分館〕設置(昭56.4)
○ 医学情報課参考調査協力掛設置(昭56.4)
○ 本館書庫棟増築〔1,950㎡〕完工(昭56.6)
○ LL装置設置(昭56.7)
○ 本館カーペット敷設(昭56.12)
○ 業務電算機NEC ACOS システム450導入(昭57.12)

2．資料およびサービスの改善

○ 医学・生物系拠点図書館として中之島分館外国雑誌を充実(昭52.4 以降)
○ JOIS情報検索サービス開始(昭52.10)
○ 懐徳堂資料マイクロ化計画実施(昭53.4)
○ 大型資料購入 日本政府外交文書、中国方志叢書(昭53年度)
○ 名誉教授閲覧証発行開始(昭53.6)
○ 大阪大学逐次刊行物目録 欧文編 1979年版刊行 (昭54.3)
○ 大型資料購入 ユダヤ研究コレクション(昭54年度)
○ 大型資料購入 欧州各国公式経済統計資料1841—1970(昭55年度)
○ DIALOG情報検索サービス開始(昭56.4)
○ 大型資料購入 法学及び国際法関係コレクション(昭56年度)
○ 国立大学図書館間相互利用〔館内閲覧〕制度実施(昭57.1)
○ 大阪大学逐次刊行物目録 和文編 1982年版刊行(昭57.3)
○ 夜間開館時間21時迄延長(昭57.4)
○ 大型資料購入 赤木文庫「古浄瑠璃」コレクション(昭57年度)

II 図書館対外関係の整備

○ 国立大学図書館協議会第2部会長(昭51-57)
○ 国公私立大学図書館協力委員会委員(昭和54—57)
○ 医学・生物系拠点図書館となる〔中之島分館〕(昭52.4)
○ 国立大学等図書館間複写データ処理センターとなる(昭54.4)
○ 国立大学図書館協議会総会第26回開催(昭54.6)
○ 大阪大学学術情報問題懇談会座長(昭57)
○ 学術情報センター近畿地区(南部)センター館となる(昭57)

電算化新システムによる雑誌管理業務の概要

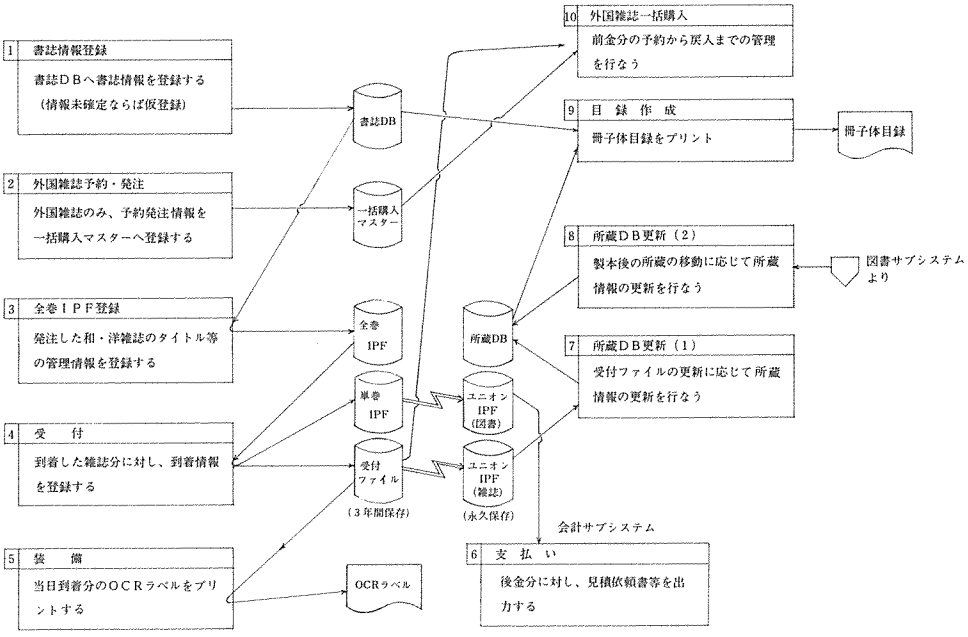
本誌(VOL. 16, NO. 4)でお知らせいたしましたように新システムによる雑誌受付業務が1月より一部稼動いたしました。雑誌管理業務については、すでに昭和47年以来、全学の外国雑誌一括購入業務、現行受入リスト作成、逐次刊行物目録欧文編作成システム、雑誌到着払の支払業務を機械化しております。今回の新システムは上記の各業務でバッチシステムと

して行ってきたものをさらに発展させ、オンラインによる雑誌受付処理、全学逐次刊行物総合目録データベースの構築、さらに製本管理などを加えたトータルで統一的なシステムとして、次のサービス効果をめざして開発にとりくんでいます。

(1) オンラインによる書誌、所蔵検索および重複購入チエック。
(2) 未着、欠号請求の迅速化による雑誌到着状況把握の拡充。
(3) 主題別、部局別等各種冊子体目録の作成、提供。
(4) 支払処理および製本業務の迅速化。

(図1)

雑誌管理サブシステム関連図



受付管理

(1)受付処理の省力化のため種々の要求に応えられるようにする。

(例) 受付する雑誌の予定巻号、受付日付、金額等のデフォルト表示(自動表示)、バックナンバー等の一括入力、金額一括入力など。

(2)到着情報入力は、処理時間短縮のためセンターにアクセスしないで各ローカルで処理可能にする。

(3)使いやすいシステムにするため、従来マニュアルで使用しているビジブルインデックスの様式を基本とする。

書誌管理

書誌データベースの登録、修正、削除は全端末より可能にするが、センター側で把握出来るようにしておく。修正、削除は各ローカルで行った後、同一誌を購読しているところへセンターから通知し、その後確認のうえ自動的にローカルデータを変更する。

所蔵管理

日々の受付情報が累積される受付ファイルから１日分の受付情報がコピーされるユニオンＩＰＦは、58年１月より受付画面(図２参照)の様式で永久保存される。受付ファイルの更新、製本による所蔵変更等によって所蔵データベースが更新される。

58年１月現在、雑誌管理業務の一部が稼動したが、未着、欠号請求システム、書誌・所蔵管理システム、書誌検索システム、諸統計システム、製本管理システム、新システムによる外国雑誌一括購入業務等逐次開発を行っていく予定である。

(図２)　受付画面例

コンテンツ：要か不要か
和洋区分：和か洋か
ＯＣＲ：出力するかしないか
DD……：デフォルト表示
ＰＴ　：パート
Ｍ　：S/Lマーク、START か LAST
可　：支払可能区分
備　消　：備品、消耗品区分
契　：契約解除・遡納区分
製　：製本区分

〈受付雑誌詳細情報〉

タイトル　××××××××××

機関：××××××××	最新巻号：××××－××××－××××	取得手段：××	コンテンツ：××
予算：×××××××××－××	中止巻号：××××－××××－××××	和洋区分：×雑誌	業者コード：×××
排架：××	ＯＣＲ：出力×××	前金金額：××××××××	年間冊数：×××

巻	号		PT	頁	M	発行日	受付日	金額	支払日	可	備消	契	製	備考
××××	××××	××××	××	××××	×	××××××	××××××	××××××	×××××	×	×	×	×	
処理コマンド	×	××××－××××－××									〈続き××〉			
DDDD	DDDD						DDDD	DDDD			D			
														確認
						エラーコード			エラーメッセージ					

処理コマンド
一冊毎入力(N)　金額の一括入力(R：冊数)　受付全体一括入力(I：冊数)　他

昭和57年度上半期　国立大学等図書館間文献複写実績

昭和57年度上半期(57年４月～９月)における各国立大学、高専の図書館間で受付処理した複写データの計算処理結果を期日までに文部省および各大学図書館等に送付した。今期の処理件数は約76,700件で、前年同期(昭和56年上半期)に比べると約11％増、件数で約 7,700件の増加になっている。

昭和58年１月から大阪大学附属図書館電算機の性能向上にともない、昭和57年下期データの計算出力帳票は漢字を使用したものになる。またデータ件数の増加から機械処理時間が長くなってきていたが、処理時間の短縮が期待されている。

教官著作寄贈図書

——本　館——

布目潮渢(教・教授)
隋代史　Wright, A.F. 著　布目潮渢、中川努訳　(法律文化社　昭57)

——理学部分室——

新村陽一(理・教授)
無機化学ノート　—拡がる錯体の領域—
新村陽一著　(化学同人　昭57)

河井清三(理・講師)
生物物理学　河合清三〔他〕著　改訂版
(裳華房　昭58)

——基礎工学部分室——

桜井良文(基・教授)
磁気バブル　桜井良文編
(オーム社　昭58)

三井利夫(基・教授)
生物物理学序説　三井利夫編
(共立出版　昭58)

——中之島分館——

杉本　侃(医・教授)
救急処置の基本手技　杉本　侃編
(永井書店　昭57)

業務電算化新システム稼動開始

かねてよりご案内の本学附属図書館の業務電算化新システムが本年1月稼動を開始した。本学附属図書館が国立大学附属図書館としては最初の図書館業務専用の電算機導入を行い、図書受入業務、閲覧業務、雑誌管理業務等の電算化を図ったのは昭和47年4月であり、今回は実に11年ぶりの新機種(ACOS－システム450, NECシステム150, NECシステム100)による新システムの稼動となった。旧システムは本館に設置されたFACOM230－15による主として本館の業務のバッチ処理による電算化であったのに対し、新システムは学内の本館、分館、分室に合計13台のCPU および40台の端末を配置し、これらをネットワーク化してオンラインで図書館業務全般の電算化を図るもので、対外的には本学附属図書館が学術情報システム構想の一環として近畿地区(南部)の地域センター館の機能を担い、近隣大学の業務電算化の中枢となる構想の下に置かれている。昨年1月より本格的な電算化準備作業に着手し、6月に機種選定を終え、7月より日本電気ＳＥの主導の下にシステム開発作業に入った。開発は大きく昭和58年1月稼動業務(主として本館の移行業務)および昭和58年4月稼動業務に大別して進められ、このたび予定どおり昭和58年1月稼動業務が開始されたものである。今回稼動した業務は、運用管理業務の中核部分である図書の貸出・返却・予約のオンライン業務(本館、理分室、基礎工分室)、雑誌管理業務のうち雑誌のオンライン受付業務(本館、中之島分館、吹田分館等)、図書管理業務のうち、予算管理、受入、支払の各業務(本館)等である。4月稼動業務として、目録業務、単行本・雑誌データベースの形成等、図書館業務電算化の中核部を形成する業務が残されており、全面稼動に向けて現在一層の開発努力をつづけているところである。

業務機械化準備日録 (1)　昭和54年11月～昭和57年8月

日　時	主　な　事　項	日　時	主　な　事　項
54.11.	機械化検討委員会発足(12名)〔第1回委員会(54.12.7)～第11回委員会(56.4.15)〕	57. 1.19	150F(CPU:4MB, DP:5GB)〕機械化準備委員会発足(12名)「大阪大学附属図書館機械化準備委員会－計画書」に基づく—昭和57.5の機種選定に向けて電算
55. 5.	業務電算化概算要求書提出〔FACOM M－		

日　時	主　な　事　項
	化計画書作成—
57. 1.25	第1回準備委員会
2.17	名古屋大学附属図書館に研修出張(8名)
2.24 ～2.25	広島大学附属図書館に研修出張(2名)
2.26 ～2.27	九州大学附属図書館に研修出張(2名)
3.12	事務電算化に関する打合せ会〔近畿南部7大学、於中之島分館〕
3.23	機種選定委員会発足(6名)
3.29	メーカー6社（富士通、日電、日立、三菱、日本ＩＢＭ、電電公社）に対し提案書提出依頼—大阪大学附属図書館業務電算化計画書(中間報告)を参考資料として付す—
4.12 ～4.14	日電、日立、電電公社、富士通各社提案書受理
4.22 ～4.23	メーカー提案書を機種選定委員に送付し検討依頼
4.26	事務打合せ会に中間報告を提示し説明する
4.27	中間報告説明会—全学実務担当者を集め運用関係と整理関係に分けて開催—
5. 6	第1回機種選定委員会—メーカー2社（日電、富士通）にしぼる—
5.12	第2回機種選定委員会—メーカー2社の説明会—
5.19	メーカー2社に対し第2次質問を発す
5.27	第3回機種選定委員会—メーカー内定（日電）
5.31	第17回準備委員会—第2次中間報告案提示—(最終準備委員会)
5.上旬	昭58年度電算機維持費、導入に伴う諸工事経費、並びに情報検索用端末装置要求
6. 4	日電に対し第3次質問を発す
6. 9	対日電交渉開催
6.15	機種決定—日電ACOSシステム450—
	機械化準備委員会第2次中間報告書（機械化準備委員会最終報告書)提出
6.16	受入、目録業務担当者会議(第1回、本館内)
	吹田分館工学部学科図書室に対する機械化説明会
6.18	運用管理WG予備打合せ会
6.22 ～6.23	受入、目録業務担当者会議(第2回、本館内)
6.24	大阪大学附属図書館業務電算化実施委員会発足、(以下「実施委員会」という)
6.25	受入、目録業務打合せ会
6.29	実施委員会幹事班会合(第1回)(以下「幹事班」という)

日　時	主　な　事　項
57. 7. 2	日本電気との打合せ(第1回)
	実施委員会運用管理WG会合(第1回)(以下「運用管理WG」という)
7. 6	吹田地区事務長会議にて電算化の説明を行う
	実施委員会雑誌管理WG会合(第1回)(以下「雑誌管理WG」という)
7. 7	大阪大学学術情報問題懇談会(第1回)
	実施委員会図書管理WG会合(第1回)(以下「図書管理WG」という)
	運用管理WG会合(第2回)
7. 8	幹事班会合(第2回)
7. 9	日本電気との打合せ会(第2回)
7.12	図書館委員会において①機種選定の経緯等報告、②機器の配置および③図書館システム用端末について協議
7.13	豊中地区事務長会議にて電算化の説明を行う
7.14	幹事班会合(第3回)
7.16	日本電気との打合せ(第3回)
	運用管理WG会合(第3回)
7.20	日本電気と幹事班との打合せ会—幹事班会合(第4回)—
	施設部、図書館及び日本電気の3者打合せ会
7.23	図書管理WG会合(第2回)
	雑誌管理WG会合(第3回)
7.26 ～7.27	日本電気ＳＥと各WGとの打合せ会
7.24	幹事班会合(第5回)
	運用管理WG会合(第4回)
7.29 ～7.30	日電端末器見学会(サントピア、21名)
8. 2	閲覧在庫管理業務初期化作業開始—蔵書管理ファイル：本館、理図、基図—
8. 4	運用管理WG会合(第5回)
8. 6	大阪大学学術情報問題懇談会(第2回)
	日本電気ＳＥとの打合せ予備会—WG主査対応—
8.11	日本電気非公式打合せ会—課長・補佐対応—
8.18	図書管理WG会合(第3回)
	雑誌管理WG会合(第4回)
	運用管理WG会合(第6回)
8.19	日本電気と幹事班との打合せ会—幹事班会合(第6回)
	日本電気システム開発体制表(現地担当者10名)および開発計画表提出
8.20	ＳＥの常駐開始

会　議

―― 附属図書館中之島分館運営委員会 ――

57．10．21（木）12：30～13：20（中之島分館会議室）

報告事項　ＳＤＩ文献検索事務取扱要領の実施について検討結果の報告があった。

協議事項　昭和58年度外国雑誌部局経費分の予約について資料にもとづき説明慎重審議の結果原案どおり予約することとなった。又分担率を検討することについても承認された。

―― 附属図書館豊中地区運営委員会 ――

57．12．8（水）15：00～16：30（本館会議室）

報告事項　1.昭和58年度外国雑誌購入について　2.図書館業務電算化システムについて　3.大阪大学学術情報問題懇談会についてそれぞれ報告があった。

協議事項　1.大阪大学附属図書館本館利用内規の改正について審議の結果一部修正しほぼ原案どおり承認された。2.豊中地区運営委員会規程の一部改正について審議定数（委員会規程の改正は三分の二以上出席）不足のため審議できなかった。

館内の動き

業務電算化説明会を開催

業務電算化計画の進捗にともない昭和57年12月17日、音響カプラー端末（Mürax）導入部局等に対し、電算化計画と端末操作法の説明会を行った。関係７部局から約30名の出席があった。これより前、11月９日には人文・社会系資料室、12月16日には文学部助手に対する業務説明会を行った。地区センター館として近畿地区関連国立大学附属図書館には９月21日に説明会を開催し、説明の後、意見を交換した。

業務電算化計画による研究・教育支援サービスの説明資料刊行

新たな業務電算化システムは昭和58年１月から一部稼動を始めたが、このたび、昨年の「学術情報問題懇談会報告」等を踏え、研究・教育のための学術情報の利用と昭和57年度以降のシステム開発を含めた図書館業務電算化にともなう図書館サービスについての概要をとりまとめた。タイトルは「大阪大学附属図書館業務電算化計画における研究・教育支援サービスの改善について」であり、２月中に学内の研究者に配布されることになっている。

日　程

57．12．8．	附属図書館豊中地区運営委員会	（本　館）
57．12．17．	第25回国公私立大学図書館協力委員会文献複写委員会	（関西大学）
58．1．21．	第26回国公私立大学図書館協力委員会文献複写委員会	（関西大学）

人　事

57．12．15．辞　職　萩原　律子　整理課庶務掛
58．1．1．採　用　武部　恵子　整理課会計掛事務補佐員
58．1．1．採　用　小林　淑子　吹田分館運用掛事務補佐員
58．1．1．辞　職　植山はつみ　整理課会計掛事務補佐員
58．1．1．辞　職　山中　弘子　吹田分館運用掛事務補佐員
58．2．1．採　用　片山　俊治　整理課庶務掛

大阪大学図書館報　Vol. 16, No. 5/6　通巻71号　　昭和58年２月１日発行（隔月刊）
発行所　大阪大学附属図書館　豊中市待兼山町１の１（〒560）☎ 06(844)1151　内線2355